



2012年10月20日(土)東洋大学主催／読売新聞東京本社共催「**グリム童話 200年のあゆみ一日本とドイツの架け橋として**」(東洋大学・井上円了ホール)へ行ってまいりました。予定は12:30～18:30。間に15分休憩を2回はさみましたが18:50終了で、ニヤ、ニヤ、ニヤーンと約6時間の長～い講演会でした。この講演内容は後日、読売新聞紙上に掲載されるため詳細のご紹介は割愛いたします。

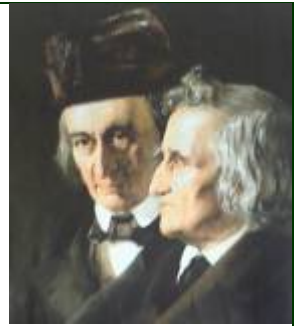
来賓挨拶：ホルガー・フィンケン博士(ドイツ学術交流会東京事務所所長)
 基調講演：ハルムニペア・ツィンマーマン博士(チューリッヒ大学教授)
 基調講演：ベルンハルト・ラウアー博士(カッセル・グリム兄弟博物館館長)

【シンポジスト】

溝井裕一准教授(関西大学)、野口芳子教授(武庫川女子大学)、
 竹原威滋名誉教授(奈良教育大学)

【司会・通訳】大野寿子准教授/田中雅敏准教授(東洋大学)

(写真はカッセル・グリム兄弟博物館パンフレットから)





「グリム童話」と関わる明治期生まれの吾輩は、井上円了ホール展示室の展示物を観てきました。「グリム童話」が日本に紹介されてから125年。東洋大学も創立125年。更に東洋大学は1990年頃から、グリム兄弟が在籍したマールブルク大学と交流を重ねているということで今回の企画発案・開催に至ったようです。ロマンティック街道に位置するグリム兄弟が最も長く住んだ地「カッセル」に博物館があります。その他ロマンティック街道沿いには「赤ずきん」「いばら姫」ゆかりの地があります。

カッセル・グリム兄弟博物館：ベルヴェー宮殿内展示 平日10～17時(祝祭日は不定)

Schöne Aussicht 2, 34117 Kassel TEL(0561)787-2033

管理・書庫・図書館：Brüder Grimm-Platz 4A, 34117 Kassel TEL(0561)103235 FAX(0561)713299

🐱グリム兄弟

グリム家の兄弟は実は9人で、一番下は女の子。兄弟中3人が夭折して成人したのは6人。「グリム兄弟」の名で本を著したのは本来次男だったヤーコプ(Jacob 1785.1.4～1863.9.20)と弟のヴィルヘルム(Wilhelm 1786.2.24～1859.12.16) 彼らは共にハーナウ(Hanau)で生まれ、ベルリンで死去しました。

🐱著作

ヤーコプ：「ドイツ文法」(1819第1巻/1822第2巻) 「ドイツ法律故事誌(1828)」「ドイツ神話学(1835)」

ヴィルヘルム：「古デンマーク英雄詩(1812)」「ドイツ・ルーン文字研究(1821)」

共著「ドイツ伝説集」(1816第1巻、1818第2巻)「ドイツ語辞典」は第1巻刊行(1854)にとどまりましたが、彼らの没後、後継者によって16巻33冊が刊行されました。

各地で図書館司書をしている間に収集された1万冊の彼らの資料がベルリンに保管されていますが、まだ全部研究されていないそうです。

🐱人生

1806年にナポレオンがベルリン占領、フランス軍がカッセル占領。この頃からヤーコプは伝承文学収集を始めます。1837年のゲッティンゲンでは二人とも反新王政「七教授(事件)」のメンバーであったため免職追放されカッセルへ亡命しました。自由を奪う政治と、それによって配慮されない町の環境整備に対する不満が多く、風景や仕事環境、家族の絆に解放感を求めました。

🐱グリム童話における兄弟の思考方向

「ドイツ的なもの」「古のもの」「詩的なもの」を発掘し、それらの伝承に手を加えずに自然のまま伝えることを目的とした兄弟ですが、兄は「原型を変えずにやりたい」弟は「時代教育に即して改訂する」方向で、グリム童話は改訂を重ねた1857年の第7版が決定版として流通しています。

🐱メルヒェン

一般に「メルヘン」というのはドイツ語のメルヒェン「Märchen」からきており、意味は「短編」「おとぎ話」「笑い話」「民話」「昔話」で、「童話」という場合は「子供のための」という単語が入ります。そのためグリム童話も原題は「子供と家庭のためのメルヒェン集(Kinder-und Hausmärchen)」といい、内容は「創作ではない民間伝承」です。頭文字KHMのあとに著作順にNo.が付けられました。【例：KLM21=灰かぶり姫(シンデレラ)】というように番号で物語が分りました。日本では柳田國男の「遠野物語」も民間伝承ですが、彼はジュネーヴから帰国するときにグリム童話を持ち帰っています。

🐱メルヒェンと伝説の違い

「メルヒェン」は文学的なもので「昔々あるところに」というように場所を特定しません。そのためいつの時代も変わらずに読み継がれます。対して「伝説」は必ず「事実」がもとになっているため場所が特定されます。そのため各時代の世界観によって内容が変化します。

🐱メルヒェン中の「変身」

「ヘンシ〜ン！」と格好良く自分からヒーローに変身するのではなく、主に魔女、あるいは神々・妖精・魔法使いによって自分が望まない動物などに変身させられました。悪魔は「まやかしの術」は使えても「変身させる」ことはできませんでした。これはキリスト教と密接な関係があり、魔法は神力とみなされ、神ではない悪魔は使えないとされていたからです。そのほかにも「自然変身」というものがあります。(カフカの「変身」みたい) 通常の間人でも変身しようというのは「人狼」信仰に基づいたものです。「狼男」を思い出しますが...

掟を破ったもの、嘘をついたものたちが「変身」させられてしまう物語には「悪いことをしたら必ず罰せられますよ」「人を騙してはいけません」という教訓が含まれていました。

「変身」の仕方では、たとえば悪人に追われている男女二人が逃げる場面では、男の子が池に変身したら女の子はアヒルに変身する、男の子が薔薇の木に変身したら女の子は薔薇の花に変身する、といったようにカップルの場合は必ず「一緒に逃げる」ために対で変身しました。

🐱日本でグリム童話が「本当はこわい」と言われるわけ

グリム兄弟は伝承物語の原型をなるべく変えずに伝えることを目的としましたが、世界各国ではその国の「世界観・社会情勢」によって書き換えられました。明治時代の日本に入ってきた「グリム童話」は英訳本で、イギリス流の宗教的・社会的見地に即して書き換えられたものです。そのため「神、悪魔、聖者といった宗教上の名称を避ける」「性的表現はしない」「王家や父親に対する不適切な表現は避ける」「暴力や殺人などの残酷なものを避ける」「役割分担に基づく男性像、女性像を作る」(以上、溝井先生資料から)というものでした。例えば「シンデレラ」などは父親がひどい人なのですが、明治期の家長制度(父親絶対権限)からすると「父親批判」はタブーでした。そのためイギリス風書き換えられたグリム童話は日本に見合い検閲を逃れたのでしょうか。このため本当のグリム童話は、日本に伝わったものよりも「怖く、残酷で、不適切」と言われています。

そして🐱に言わせてください。「幸せなハンス(Hans in Luck—A Tale)」は主人：夏目漱石も通ったことのある「東大予備門」の英語教科書でした。さらに KHM(子供&家庭のメルヒェン集)から適切な話を集めて掲載した『女学雑誌』は女性の楽しみのための雑誌ではなく、明治期の息子を教育するために母親が読むもの、つまり男児教育のための雑誌でした。明治時代には英・米・仏文化が輸入され、明治20年(漱石20歳)にはドイツ物が入ってきました。グリム童話はヴィクトリア王朝のイギリスを経て日本に入ってきたわけです。『吾輩は猫である』文中にも明治社会へのドイツの影響が描かれています。



では、元に戻って

🐱シンデレラ世界変遷

「シンデレラ」はグリム童話では「灰かぶり姫」というタイトルで、本当は魔女ではなく「妖精の名付け親のお婆さん」が援助してくれて、ガラスの靴ではなく「金の靴」でした。それがフランスでは「サンドリヨン」(ペロー)となり、イタリアでは何と姫ではなく「灰かぶり猫」(バジーレ)となりました。

日本で「ガラスの靴」なのは、本の輸入元のイギリスでは金(Gold)が「貨幣」と替えられたことから「無駄遣い」を奨励するような表現をしないように「ガラスの靴」になったためです。各国々の価値基準で「大切なもの」が書き換えられ「大切なものを大事にする」気風を養う教育に活用されました。

🐱グリム兄弟とアンデルセンのエピソード

歌手を志したけれど変声期になってダメ、本を書いたけれど売れない、そして絵本作家になったアンデルセン。女性にも振られ続けましたが「一番辛かったのはグリム兄弟に振られたことだ」といいました。それはあるときグリム兄弟を訪ね「どちらのグリム？」と聞かれて「有名な方に会いたい」と言いヤーコブに取り次がれましたが、彼はアンデルセンを知らなかったので会わなかったからです。その後、ヤーコブは北欧を旅した際、アンデルセンに会ってその件を詫言ったそうです。

講演会も長かったけれど、民話の数も気が遠くなるほどたくさんあります。動物昔話、本格昔話、魔法昔話、笑い話、形式話などなど...。世界初の分類者アアルネ、そのあとトンプソン、そのあとウターということで彼らの頭文字をとってATU分類No.で50万話。日本の稲田浩二(稲田タイプ)ITで6万話。果てしない話を聞き続けたら、魔法が解けてかぼちゃの馬車が消えちゃうニャー。(2012.10.21記)